

## 令和5年度第2回行政評価市民会議

日 時：令和5年9月13日（水）18時30分～20時30分

場 所：鹿角市役所 第1・2会議室

出席委員：8名中6名

出席職員：〔政策企画課〕

課長、副主幹兼室長、主査、主査、  
主任、主事

### 1 開会（進行：政策企画課）

ただいまから、令和5年度第2回行政評価市民会議を開会いたします。

### 2 会長挨拶

前回は皆様の立場から色々な意見が出ました。今回も皆様が思っていることを自由に言っていただければと思います。

### 3 案件

#### （1） 第7次総合計画前期基本計画行政評価結果について（資料1）

説明：政策企画課

#### 質疑応答

（委員）（基本戦略1 活力を生む地域産業・生業を支えるについて）新規就農者の確保を図るとありますが、どうして新規就農者に力を入れているのか詳細をお聞かせください。

（事務局）鹿角市では第7次総合計画を作る前年に人口ビジョンを策定しました。その中で全ての産業の年齢別就業者数を分析しております。建設業でもだいぶ高齢化が進んできていますし、またその他のサービス業といったところも高齢化は進んでいますが、40代までの層が半分を占めており、おおむねどの年齢層もまんべんなく従業員が存在していることが分かっております。しかしながら、農業については60代以上が6割から7割を占めており、特に15歳から29歳、そして30代のところが、1割いるかいらないかという状況になっております。農業振興課でも将来的な農業の就業人口を同じく分析しており、この状態でいきますと、鹿角市の農業就業者がほとんどいなくなってしまうという危機感が生まれております。そこで新規就農者に支援をし、鹿角市から1人でも多くの若手農家が出ていただくことを強く政策に打ち出しておりまして、またそういった人が増えてくると自分もやって

みたいとか、移住して鹿角の農業に憧れを持っていただける方とか、そういった方々を増やせるのではないかということの相乗効果を考え、この新規就農者を手厚く支援しています。

(委員) ありがとうございます。現に新規就農者は少ないと思いますが、新規就農してから5年経ってからも続けて農業をやる人は何割いますか。

(事務局) 国の交付金制度を活用しながらのお話だと思います。我々の方で把握できていませんが、5年過ぎてすぐ離農すると返還が発生するかと思いますが、そういった事例は聞いていません。(後日、農業次世代人材投資資金事業の利用者(H26~)は40組で、離農したのは1人と農業振興課より聞き取り)

(委員) やってみてやっぱり駄目だったという話も聞きます。計画上どんどん目標とする金額が上がっていくような計画になっていると思うので、ちょっとだけやってみたいと思う人ではなく、大きくやろうと思う人じゃないとこの支援は使えないと思っています。スマート農業に結び付くのも、ある程度面積がないとドローンやAIを入れられない状況だと思うので、小規模でも農家をやりたいという若手には向かない政策かなと思います。そういう部分について、改善策を出してもらえばいいなと思います。

(事務局) 農業者の育成もステップアップできるように制度を準備しておりますが、なかなかハードルが高い部分もあると思います。また、簡単な気持ちで農業をやってみたいと相談に来られても、すぐ離農してしまうということもあって、最初の入口のところで強めに指導させていただいていると聞いておりますので、意見は受け止めて使いやすい制度を構築していきたいと思います。

(委員) 評価に対して今回の会議では、どのように意見をすればいいのでしょうか。

(事務局) 今回皆さんにご提示しているのは、内部評価ということで、市役所の内部で自己評価をした結果を皆さんにお示ししております。この総合計画の中ではABCDと4つの判定を我々の方でつけさせていただきました。こちらは基本的に、計画した目標値に届くくらいの事業量をこなしたか、それに見合うくらいの進捗率だったか、といった点で評価していますが、その中で前回皆さんにお示した市民アンケートの評価も踏まえまして、総合的に把握しています。その中では、これくらいやっているのが当然Bだろうとしながらも、市民の満足度が低いものに関してはCに下げたり、あとは数値上Bでありながらも、厳しい評価がある部分は特記すべき事項として今後の進め方に記載しております。市の内部で今回ABCD判定をつけて、さらには定性評価のところでは「これくらいやりました」、「こういうふうに進んでおります」、というように提示させていただいておりますが、皆さんの目線で、「これはそんなに進んでいないのではないか」、「これはBではなくて、全体を考えるとCなのではないか」、又は、「むしろC判定だったものが、これはしっかりと取組んでいるのではないのか」、「もう少し評価を上げることも考えられないのか」、そういったところをお話いただきたいと

思っています。また、「もっとこういう政策をやった方がいいのではないか」というご提案も受けたいと思っています。

(委員) ありがとうございます。そうすると1ページの「基本戦略1」にある「地域産業の成長を支援します」ですが、この部分がB、満足度が29位ですが、個人的に最近感じるのが、夜の飲食業や代行業で、代行も1件廃業しています。飲食店もゼロゼロ融資等ありますが、あれも結局返す前提です。週末はとても混んでいるけど、平日はさっぱりだということもあります。やっぱり一定数の代行がないと、2時間待ちとかが多い状況になってきてしまいます。ただ、コロナがある程度落ち着いた状況で、コロナ禍での支援が行政としては終わったのかなと個人的に感じるところがあるので、そういうところを踏まえて、夜の支援を検討していただければなと思うところもあります。

あと、工業振興会にアドバイザーを配置したという話もありましたが、飲食店関係もそのようなアドバイスが欲しいところもあるかと思います。前回も湯沢市の話をしましたが、湯沢市はゆざわ-Bizという起業支援や経営の相談を行っている組織があり、そこの所長さんがすごく面白い方です。一番すごいと思ったのは起業をする前にシミュレーションをしっかりとさせます。やはり起業はリスクがあるので成功すればいいですが失敗するとかなりの金額の負債ができます。私の友人もシャインマスカットを作ろうかなと言っている人がいますが、考えが甘いなと感じます。見切り発車でやってしまうと借金を抱えてしまいます。商工会は私の中ではお医者さんの的なもので、お医者さんではなくて、学校の先生に近い存在で、指導や助言をしてあげる役職や部署があると有難いと思います。起業する人からとってみればアドバイスをもらえるし、シミュレーションや銀行からお金を借りる場合にも、計画を出さなければいけないので、そこら辺をサポートする制度があるといいと思います。個人的には取組方針①「地域産業の成長を支援します」はCかなと感じました。

(事務局) 取組方針①「地域産業の成長を支援します」の部分は、前回お渡しした総合計画をじっくり見ていただかないと分からないかもしれませんが、製造業等をメインとした支援策としておりまして、この取組みでは、製造業の付加価値額を上げていくという目標と、農業の産出額を増やしていく、という指標を掲げていまして、地域産業の中でもサービス業の部分はここではちょっと手当ができていなくて、ここでは製造業と農業者への支援となっています。資料を見ていただくと掲げた指標が4つありますが、この色分けが、最初のページの色と対比になっていまして、金色になっているのが前期計画の令和7年度までの目標値を超えたものということで、一番上はクリアしました。2番目は、令和3年度の数値が入っていますが、令和3年度の数値39.4%に対して39.5%と、令和3年度の目標をクリア、また、ほ場整備の整備完了地区割合も横ばいで推移しているということで、掲げた指標4つのうち3つをクリアしたため、B評価にさせていただきました。先ほど言っていた地域への支援といった部分は、実施計画では見えないのですが、コロナ対策ということでいろいろと支援させてきていただいております。おっしゃるとおり国の方の支援も変わってきていて、物価高騰対策という形で最近は進んでいます。国の動向等を見ながら引き続き支援していきたいと思っておりますし、町の元気が衰退していくというのを食い止めるためには、全体的な底上げが必要だと思っていますので、個々のお店を支援するというよりはみんなが町に出られるような雰囲気づくりも必要になってく

と思っています。また、お店の廃業を食い止めたいという部分については、12 ページになりますけれども、取組方針②次世代産業の創出に取り組みますといった部分で、起業者を増やしていくということもありますし、ここの中では事業承継の取組みもさせていただいているところです。起業者への支援につきましては商工会、銀行、市、県のよろず支援拠点といったところもありますが、先ほど言っていた先生のような存在は県のよろず支援拠点のコーディネーターの方が月 1 回、まちなかオフィスで相談を受け付けておりまして、そこからお金が必要であれば銀行の方にも事業計画を練り上げていくという作業もありますし、商工会や市でも補助金を出す等、みんなで一緒になって起業者の方を育てていきたいと思っています。まだまだ弱いところはおっしゃるとおりであります。

(会長) 3 ページ目(基本戦略 3 快適で安らぎのある暮らしを守るについて)の評価の中に、空き家対策がありますが、適正管理度レベル 2 の一部を対象とした除却支援制度とはどのようなものでしょうか。

(事務局) 市の空き家を全数調査し、その後に部分的にまた調査して、5 年に 1 回くらいやっているのですが、その中ですぐ使えるもの、少しでも手をかけなければもうすぐ駄目になってしまうもの、全く駄目なものということで、3 段階のレベルで評価しています。レベル 1 は十分使えてすぐにでも中古市場に回るようなもの、レベル 2 は手をかけなければ解体しなければならないレベル 3 に落ちてしまうもの、レベル 3 が全く使えないものとなっています。

(会長) 令和 4 年度に行政代執行した件数は何件でしたか。

(事務局) 令和 4 年度は 1 件でして、特別な理由がないと代執行というところまではいかないのですが、そこに至るまでは、所有者の方に根気強くお願いし、危険なので市役所が代わりに壊すという建付けになっております。なお、費用は本人に請求するということになっています。

(会長) 建物が危険な状態で放っておけないから代執行するわけですね。その危険の度合いについてですが、具体的にどのような危険がありましたか。

(事務局) 今回の場合は、歩道に崩れてくるような部分もありましたし、隣の建物に被害を及ぼすということもあり、かなり老朽化が進んでいる状況で、本人に壊してほしいということをお願いしたのですが、いろいろな事情があってできないので市が代わりに壊しました。

(会長) 例えば近くに家や道路もない状況で倒れかけている家があったとしても、それは代執行の対象にはなりませんよね。

(事務局) それは行政の方では手をかけないことになっております。

(委員) 9 ページの取組方針③で、外国人技能実習生の受入れの支援のところで、評価が C になっていますが、私の知っている人で技能実習生ではなくて特定技能で入ってきた方が数人いるのですが、実績が 0 になっています。これはどのようにカウントしているのでしょうか。

(事務局) ここでは、市の支援人数をカウントしています。例えば雇った会社に対し市の補助金により支援をした人数を積み上げていきたいと考えておりましたが、コロナの影響により市が支援策を立ち上げることがまだできていないという状況です。

(委員) この状況を見て、すごく難しいなと思っているのは特定技能で入ってきた皆さんはお金を稼ぐことが目的なので、賃金が安いところに入ってくると、入国のハードルをクリアした後は都会の方に転職してしまい、せっかく高いお金を払って入国させた会社さんの首が絞められている状況にあるので、もっと手厚く鹿角市の中に支援機関や監理団体があればいいと思います。東京の人材派遣会社も来ていますが本人たちの支援には一切なっていません。鹿角市で移動手段がないと暮らすのが非常に難しいので運転免許取得を手伝ったりしているのですが、地元の人が温かくというか、ある程度いい思い出にしてもらえような、そういう支援機関を地元を持てるといいのかなと思いました。

また、10 ページの取組方針⑭「緑と水の映えるまちの環境を守ります」が A になっていますが、これはおそらくこの先も A になるだろうと思いますが、目標値が低いのではないのでしょうか。森林皆伐後の再造林割合が目標値に対してもう既に倍以上の結果が出ているので、見直していかないといけないかと思います。

(委員) (経営戦略2 「世界遺産のまち」をつくるについて) 7 ページの文化遺産が豊富で誇れるまちであると思う市民の割合 59.2%、6 ページの市外から人が訪れたくなる魅力のあるまちだと思う市民の割合 22.5%で、これはつまりきりたんぼと同じで、文化遺産では人を呼べないと市民は分かっているということではないのかと私は感じます。きりたんぼに縛られていてホルモンが出たら注目度が高まるという状況がまさにそれだと思って、稼げない可能性が高いのではないかと市民は思っていますというのははっきり言いたいです。

(事務局) 市外から人が訪れたくなる魅力のあるまちだと思う市民の割合は、観光地として市民が満足しているかというところを評価していただきたい指標にしています。まだまだ取組みが足りないというところが表れておりますし、文化遺産が有効活用できていないだろうとも考えています。

(委員) あまり有効活用しても結果が出ないのではないかと考えている市民が多いと思いますので、税金を使う割合を考えて、もっと未来に向けて、投資になるところに使っていただきたいなと思います。

(事務局) 旅行に行くときに何を目的にその旅行先を選んでいるかというところを考えてみたときに、色々な要素があると思いますので、その辺をブラッシュアップしていければと思います。

(会長) それでは、9 ページ以降（取組方針の評価）で質問はありますでしょうか。

(委員) 全体の成果指標はどのように決めているのでしょうか。

(事務局) それぞれの政策評価のシートにある大きな目標をまず作ります。今回第7次総合計画が目指す部分の中で大きな将来都市像がありますが、それに寄与する部分で例えば産業分野はどういう成果を目指すとか、福祉分野はどういう成果を目指すかということで、まずこの大きな目標を立てます。その後それぞれの事業で実際に何をやるかという取組みに落とし込んでいきますが、その過程で中間的な成果を定めていきます。事業と大きな成果はあまりにも遠く結びつかないので、その中間で何をやっていくのか、どういう取組みに分類していくかといった部分を定めるため、それぞれ取組方針ごとに4つないし3つくらいの成果指標を設定しておりますが、そこで農業の部分であれば例えば農業の産出額を上げていかないと、一番上の所得の部分が高まっていけないとか、それぞれの部分で捕捉できる取組みを作っています。さらにはこれを実現するために、この事業をやればこの付加価値が高まるとか、この事業をやれば農業の産出額が高まるということで、それぞれロジックを作っていますが、そのロジックを作った中で過去にやった事業の成果を見ながら、どの辺まで伸ばしていきたいかを話し合いながらそれぞれの目標値を定めています。普通にやっていけば当然上がっていくような部分はさらにその上を伸ばしていくとか、事業量を増やすとか、効率性を改善するとか、各課とすり合わせながら設定しているところです。

(事務局) 9 ページの①②③の指標を達成していくと、1 ページの1 人当たり市内総生産が上がるというロジックを組み立てて実施していて、経年で比較できるものについては、頑張らないとこの数値にならないというところを我々企画担当と担当課ですり合わせをして、この事業を行ったことによってこれくらい伸びるというのを、達成できるかできないか絶妙なところを選びながら設定しています。先ほどの再造林率ですが、思惑と違う部分がやはり何個か出てきておりますので、いつかの時点で見直しをかけなければいけないなと思っているところです。

(委員) 先程のヘリテージの話でもありましたが、A 評価になっていますが、ここが頂上になってしまっているのではないかという疑義があります。市民との間に温度差があって、これを達成したにも関わらず何も起こってなくて、そもそもそのゴールまでのロジック自体が崩れている可能性が高いのではないのかなと感じました。もしかしたらロジックを組み立てるところからこういう会議を開いていかなければいけないのかなと思います。

(事務局) 成果指標の中で、対外的に公表しなければならないものもあり、そういったものはなるべく取り入れている部分もあります。必ずしもそうではない分野もありますので、そういったものについては、自分たちで過去の実績とか目標値を定めて作っている部分もあります。その中にはやはりおっしゃったように乖離している部分がありますし、反対に、公表しなければならない数値があって、もう全国との比較等もできていて、目標達成が難しいものもあるので、そこら辺はやはり調整が必要に

なってくるだろうというのは、認識しております。

(委員) 取組方針⑦「地域ぐるみの子育て支援を充実します」のファミリー・サポート・センターの受講者登録数ですが、受講者が7名のうち登録は1名で、どうして登録しなかったのか分かりますか。

(事務局) サポートセンターの報酬費が安かったため、同じ時間を拘束されるにあたってこれをするよりは他の仕事をした方がいいという方が出てきているという話を担当課から聞いています。令和5年度においては最低賃金に近づくように、200円上げて800円にさせていただいております。

(委員) 私も7年前講習を受けて登録しなかったのはその理由です。働きたくて行っただけですが、時給600円で小さい子どもをみて、自分の子どももみるというのが仕事にならないなと思いました。講習を受けたのも子どもに携わりたくて、知識も身につけたくてやりましたが、それが結局反映されなかったです。受講した人は多分今までかなりの人数がいると思いますが、活用できなかったという人の方が多いと思います。その人たちがもう一度活動できるように待遇改善の内容を紹介してみればいいのかと思います。保育園までの送迎をするのでも1回何円と出ていますが、働いている人と比べると全然安い賃金なのでやらないという声が多くあったので、今年から賃金が上がるというのを皆さんに知らせていただければすごくいいなと思います。

(委員) 取組方針⑪「安全・安心な住まいづくりを進めます」と⑫「防犯や交通安全を進めます」についてですが、毛馬内住宅ができてからユニバースに横断歩道ではない箇所の道路を横断する人がすごく増えました。近くに十和田小学校もあって、交通指導をしているときに目の前で横断されるので、警察の方にも今年相談しました。小学生の登下校の時間や、交通安全教室をやっているときも、横断している人がいて、住宅ができてから急増しています。事故に結び付くのではないかと地域のひとと話しているので、地域の回覧版や広報等で強く言ってもらいたいです。ちょっと歩けば横断歩道があるのに、そのちょっとが多分大変なんですけど、でもちょっとで命を失うよりだったら、子どもたちがいる目の前なので守ってほしい、お知らせを強くしてほしいと思いました。

(事務局) 毛馬内住宅で自治会を組織しておりますので、そちらの方に生活環境課から、申し入れをさせていただきます。

(委員) 学校にタブレットを導入することにあたって、家庭環境でWi-Fiがあるかを確認したと思います。タブレットが1台入ることによってルーターが追い付かないという事案が出てくるとは思うのですが、ルーターの貸し出しは考えていないのでしょうか。中学校ではWi-Fi環境でなくてもできる宿題を今持たせているとのことでしたが、これからネット環境が必要になれば何台もある家庭は使えないのではないかと思います。

(事務局) 今のところ令和5年度から、経済的な理由によって学力格差が生じないようにということで、

就学援助費にオンラインに繋ぐ支援を追加させていただいております。今後、学外、家での学習もどんどん増えていくと聞いておりますので、その辺の支援をどのように考えているか、今後ヒアリングしていきたいと思います。

(委員) 取組方針⑥「結婚の希望が叶うよう応援します」について、「カップリング」や「出会い」と書くに参加しづらいという話を聞きます。カップル数を作るのは別に目的ではなくて、結婚の希望が叶うようにということであれば、制度をすごく緩くしてあげることが必要です。なおかつ個人的に婚活にいいなという婚活パーティーを、独身男女5人ずつとかでその人たちが企画するのが良いと思います。なぜなら、初めて会って仲良くなることはなかなかないからです。知り合いから、カップリング率が高いのは役員同士が多いという話を聞きまして、そういうのを2回3回実行委員会のような形でやって、こういうのを作りましたという形で、あとは一般で募集するという感じだと、意外にその中でカップリング数は増えるのではないかと思います。そういう参加しやすい婚活を目指すといいのではないのでしょうか。

(事務局) おっしゃっていただいたように結婚を前面に押し出した場だと、女性が参加しづらいと聞いておりまして、男性はすぐ集まりますが、女性を集めるのに苦労しているようです。先程の役員同士という話のように、自然な流れでカップリングするというのがやはりいいと思っていますので、現行の補助制度を拡充できるかどうか検討していきたいと思います。

(事務局) 実際のところ、イベントで付き合っただけで結婚っていうよりは、このイベントを通じてあきた結婚支援センターを紹介しており、そこに登録をしてもらいマッチングアプリとかで結婚に至るケースが結構多いと聞いています。

(委員) 同世代でも多いのですが、若い人たちも結婚を軽く諦めている人もいるので、コロナ禍でいづようになるか分かりませんが、できるうちはそういう支援をしてあげて、若い人たちの交流が生まれればいいなと思いました。

## (2) 鹿角市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について(資料2)

説明：政策企画課

### 質疑応答

(委員) 文章の表現が難しいなと思いました。市役所内で当たり前になっていると思いますがAターンという言葉が分からなくて調べました。秋田独自の取組みということで、分かる人は少ないと思います。市役所ではない人に出す資料に対しては丁寧に作ってほしいと思います。これが公式なので文章的には多分これでいいのですが、言い回しが難しく読みにくいです。1回では頭に入らないというのが感想なのですが、市民会議というのであればもう少し考えてほしいなと思いました。市役所の中では当たり前になっているけど、一般的には難しい言葉というのはあるのではないかと思います。仕事し

ている人だと KPI とか聞き慣れていると思いますが、そうでない方は聞き慣れないのではないかと思います。

(事務局) 当たり前のように使っている言葉が多いというのは事実だと思いますので、気を付けていきたいと思います。分かりやすい資料作りを市民会議では心掛けていきたいと思っていますが、限られた時間の中で説明するためには、資料も膨大になってしまうというところもありますので、折り合いをつけながら進めていきたいと思っています。

(委員) 第 7 次総合計画ができたときに分かりやすい冊子（ダイジェスト版）が配られたと思いますが、あのような感じだと分かりやすいと思います。

(委員) 市民アンケートの文章は割と分かりやすいと思います。まち・ひと・しごと総合戦略は内部的な文章だと思い、難しいなと思います。

(委員) 意見を出しづらいですね。

(委員) 市民アンケートに結構書いていたのですが、「市役所の人間が偉そうだ」とあり、私はそう思いませんが、偉そうに見えるのだと思います。こちらが突っ込んでいけないから、どうすればいいのだろうとなってしまいます。サービスというのは利用者に対していい方法を考えて提供しなければならないので、文章も簡単になってくると思います。市民アンケートを読んでいて感じたのは、凝り固まったお年寄りが多いということ、子どもや未来に向けた意見を言う 30 代 40 代が多いということ、そしてその凝り固まった意見を言う人たちがこのアンケートの大半を占めているというのが残念に思いました。文句ばかり言ってる人もいれば、行政に関係ない意見なのではないかと思いつつも、いろいろな人がいる中で今回の 8 人が市民の立場なので、ぜひ意見を一番上まで上げてもらえればと思います。

(委員) 基本目標 3「未来を拓く 若い世代の希望をかなえる社会づくり」の出生数の減少というところで、私も子育てをしています。妊娠・出産の際、鹿角市はとても子育てしやすい環境であると思いますが、不妊というところが弱いのかなと思っています。不妊治療しても妊娠に至らないと助成金が出ないと聞いたことがあります。今もそうなのでしょうか。

また、高度な医療になると鹿角ではできない治療がありますが、市外に出たときも助成しているのでしょうか。

(事務局) 妊娠に至らなくても治療だけでも助成しておりますし、市外での治療も助成対象となっております。

(委員) やはり市内で産科を持つのは難しいのでしょうか。例えば産科医がこの地域から生まれたと

しても1人ではきっと担えないでしょうし、いろいろな問題が複合してすごく難しいと思いますが、やはり産科が無いというのは出生数を上げるにあたって非常に厳しいなと思います。隣町とはいえ1時間かかるというのは当然出生数にも影響すると思いますが、あまりそこには触れていないなと思います。どうすれば産科をもう一度持ってこれるのか、どのくらいの出生数があれば先生を2人置けるのかという目標値を定めてそこに行き着くよう、市だけではもちろん頑張れないと思うので、住民と一緒にどうやっていったらいいかを全力で取組み、誰かだけ頑張っても駄目なので全体で考えていかなければいけないと思います。もっと本気を出さないといけないという危機感を持ちながらみんなで取り組みましょう。

(事務局) 産科医自体は少子化に伴い全国的に減少しているというのもありますし、小児医療、産科医療が高度化しているという状況もあります。そういった中で、産科医も働きやすく、そして採算も取れるようにするには、ある程度集約するしかないという考えが今の日本の産科医療の主流の考えになっています。今大館に集約されていますが、それでもなかなか維持するのが難しく、ここを何とかキープしようというのを行政も医療も頑張っているところであります。おっしゃるとおり産科医が、鹿角にあればいいというのはそのとおりだと思いますが、そこに至るまでのハードルはやはり非常に高くなっています。

(委員) 産科の医療体制を分散化できる打開策があるといいのですが。助産師さんがいてもそれを引き受けてくれる医療機関が遠かったら駄目でしょうし。

(委員) 国自体がそういう方向に向かっている中なので厳しいです。いずれは鷹巣や北秋田の方にまとまる予定という話も聞きます。

(事務局) 今、北秋田市の市立病院にまだ産科機能が残っているはずですが、そこも1人で回していて非常に大変で、その先生が守らなければいけないという状況の中で頑張っていらっしゃると聞いていますが、相当ハードだと思います。鹿角に産科があった頃も非常に大変だったという話は聞いています。やはりハードルは非常に高いと思います。

(委員) 市長の選挙での公約は現実的にもう無理だということで結論が出ていて、大館を維持しようという方向で動いているのですね。

(事務局) 理想は鹿角に産科があることであり、そこは捨てられませんが、ただ現実は大館にある状態を守るところでも非常にぎりぎりのところでやっていて、理想に近付けるにはやはり相当なハードルがあります。

(委員) 鹿角の産婦人科を守る会が活動していますが、鹿角に産科を持てきたいと言ったところで無理だから、もっとサービスを拡充してくださいという方向に動いた方が、その団体としてはいい

ということですよね。例えばタクシー料金の上限無しとか、そっちの方向で話を進めないとうにもならないですよね。

(事務局) 現実的に鹿角に産科を復活させるのは非常に厳しいですが、だからといって市民が何も声を上げないとなれば可能性がゼロになってしまうということもあると思います。大館に行くという現実の中でも、冬が大変だという声があるわけで、そういう声はやはり国の方にも届けなければならぬと思いますので、そういった面で諦めないで活動するというのは大事なことだと思います。

(委員) 高速道路で言うと期成同盟会とかで署名を NEXCO から国に上げて、シンポジウムとかの実績を踏まえて高速道路補助金を交付しますという話ですが、例えば署名を集めて国に上げててもそれは厳しい話なのでしょうか。

(事務局) 署名を集めて、産科を小さな町にも置くという答えだけではなく、別の方法で何かしら良くなるという可能性もあるかもしれませんので、やはり地域の窮状を知ってもらって、それを解決する方策を考えていくというのが大事ななことかと思ひます。

(委員) 私は大館市立病院で出産しましたがその時アンケートを書きました。そのアンケートは何かに反映されているのでしょうか。

(事務局) 妊娠出産応援助成金という市の単独の助成金があるのですが、こちらから大館市立病院に行くまでの掛かり増し費用分を市が補助する事業ですが、アンケートをとった翌年に制度を作らせていただきました。こちらは、妊娠出産応援助成金 5 万円を市から単独で助成させていただいて、その他に国から出産応援給付金が 5 万円と出産後子育て応援給付金で 5 万円という支援になっております。

(委員) 実際この 5 年くらいの間で何かトラブルはなかったのでしょうか。友人が病院の駐車場に着いた瞬間、車の中で出産したと聞きました。

(事務局) 時間がかかればそういうこともありますし、産まれそうなのに大館まで泣きそうな思いで行ったとか、冬道の運転が本当に怖いという声は聞いておりまして、その辺の支援はさせていただいております。ただ、これでいいということではありません。

(事務局) 最後に確認ですが、内部評価をさせていただいたところで、委員から厳しいご意見も頂戴したところでしたが、「地域産業の成長を支援します」のところは B のままでもよろしいでしょうか。

(委員) 製造業や農業に絞るのだったらいいですが、地域全体といった部分に関して製造業はあまりイメージが浮かばなくて、観光業や商業が地域産業のイメージです。製造業はどちらかというと顧客がこちらにないです。腑に落ちないですが C 寄りの B ということでいいと思います。

#### **4 その他**

(事務局) 今回の会議で令和 4 年度の評価について、ご意見を頂きました。この後、本日頂いた意見を市役所内部で報告いたしまして、令和 4 年度の評価を今月末に決定したいと思います。それから、今回の評価をもとに令和 6 年度の予算編成作業に入っていきます。次回は、3 月頃にいただいたご意見をこのように反映したということを報告したいと考えていますので、その時はまたよろしくお願いします。

#### **5 閉会 (20 : 30 終了)**